

熊本県立上天草高等学校 平成30年度学校評価表

1 学校教育目標

「くまもとの教職員像」、「平成30年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「平成30年度体育保健課取組の方向」、「平成30年度人権教育取組の方向」等を中心に据え、生徒一人一人の個性を伸ばしながら、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育の実践をとおして、社会を構成する一員としての必要な人間力【智・徳・体】を身につけるために、思いやりの心(恕)を持ち克己精励する生徒の育成をめざす。

2 本年度の重点目標

スーパーグローバルハイスクール事業の推進
・地域社会に開かれた学校づくり
・地域産業・経済に寄与する学校づくり
・グローバル人材を育成する学校づくり
・地域交流・地域防災を推進する学校づくり
・主体的・対話的で深い学びの視点を重視した授業の推進

- 1 学習指導の充実
(1)授業第一主義(生徒の実態に応じたきめ細やかな授業展開)
(2)研究授業の積極的実践(相互授業参観等の実施)
(3)自学自習の習慣化及び読書指導(朝読書の充実)による基礎学力の定着
2 生徒指導の充実
(1)マナーの徹底(正しい制服着用・頭髪、元気な明るい挨拶、正しい言葉遣い)
(2)部活動の活性化(部活動加入率アップ、計画的・継続的指導の充実)
(3)生徒会活動の活性化(自主・積極的活動の推進)
3 進路指導の充実
(1)進路情報の提供及び面接及びガイダンス指導の充実
(2)進学・就職説明資料提供並びに外部講師等による講演会や各種説明会等の機会拡充
(3)インターンシップ、ボランティア活動等の体験活動への積極的参加
4 その他
(1)環境教育・安全教育の充実
(2)校内職員研修会等の充実
(3)学校評価の実施とその活用の充実
(4)人権教育の視点に立った特別支援教育・適応指導の充実(組織的・継続的指導)
(5)体育大会、文化祭、上天草バザール等の学校行事の充実(地域や育友会との連携)
(6)広報活動の充実(HPの更新・広報紙・学校説明会等による情報発信の充実)

3 自己評価総括表

Table with 6 columns: 評価項目 (大項目, 小項目), 評価の観点, 具体的目標, 具体的方策, 評価, 成果(●)と課題(▲). Rows include: 人間力、恕、自律の育成, 学び合い高め合い支え合う職員集団, 保護者(育友会)との連携・協力, 研究授業、授業公開.

学力向上	授業の充実、分かる授業	◇指導力の向上 ◇授業評価と授業改善	○生徒による授業評価の結果分析等により、生徒の学習意欲を高める授業の実施を目指す（生徒アンケートにおける肯定的評価70%以上）	・生徒による授業評価 ・個別指導等による生徒の実態把握 ・スーパーティーチャーの積極的活用	A	●生徒アンケートによる肯定的評価は約76%で、生徒の学習意欲を引き出すような授業が実施できた。 ●授業評価アンケートを年1回から2回に増やし、質問内容も改善した。詳細に結果を分析し、授業改善に生かすことができた。 ▲主体的・対話的で深い学びの視点を重視した授業の推進に力を入れていく必要がある。
	基礎学力と学習習慣	◇家庭学習時間の増加	○家庭学習の習慣化を図り、併せて家庭学習時間の増加を目指す。（1日の平均学習時間60分以上）	・家庭学習時間調査による生徒の実態把握 ・ホームルーム等での周知と啓発	B	●定期考査前に家庭学習時間調査を行った。調査表に昨年と比較できるような工夫をし、学習時間増加の啓発に役立てた。 ▲1日の平均学習時間は約103分であるが、学習時間が増えた生徒とそうでない生徒にばらつきがある。
	読書習慣の育成を通して、豊かな教養と人間性の涵養に努める。	◇図書館を活用した人材育成 ◇情報リテラシーの向上	○図書館利用者数を増やす。（1日の平均来館者数20名以上） ○朝読書の徹底 ○授業における図書館の活用（各授業で積極的に図書館内の資料・情報を活用する）	・積極的に広報活動を行う。（図書便り、文化祭、図書館でのイベント） ・毎月図書館便りを発行する。 ・生徒のリクエスト等による新刊の積極的入荷を図る。 ・教科の学習内容と連携するなど、展示を工夫する。	A	●定期的に広報活動を行ったり、イベントを行ったりしたことで、生徒一人あたりの貸出冊数の増加につながった。 ●毎学期の始まりに利用予定や必要な本を調査したことで、授業との連携を強めることができた。 ▲調べ学習などで活用する資料を準備するため、教科との連携をさらに強める必要がある。
キャリア教育（進路指導）	系統的キャリア教育	◇進路検討会の実施	○生徒一人一人の希望や適性にあった職業検討を行う。 ○生徒のニーズにあった大学等進学先の検討を行う。 ○3年生全員の進路目標決定を目指す。	・インターンシップや企業見学、進路別講演会、マナーアップ講座、スキルアップ講座等の実施 ・オープンキャンパスへの参加や大学出張講座の実施	A	●1・2年生では学年に応じた進路行事を計画、実施することができた。特に進路出張講座では、就職と進学に分かれて自分の希望する講義を受講し、進路意識の向上につながることができた。 ●3年次の企業との交流会から模擬面接会、職場見学への参加呼びかけなどが、就職希望者の早期内に繋がった。 ▲各行事の日程の決定が遅かった。
		◇3年間の系統的指導	○模擬試験等を活用した継続的指導を行う。 ○生徒の状況を把握 ○課外授業の工夫や面談を実施	・コース別・習熟度別課外を実施 ・担当が家庭訪問・個人面談を実施 ・学習習慣や学力定着を把握するための模擬試験の実施	B	●課外授業で系統的な指導を行い、目標を持って学習に取り組むようになった。 ●教科担当者との二者面談等を行うことで、生徒への確かな教科指導ができた。 ▲模擬試験の振り返りが教科間で温度差があった。
	進路意識の向上	◇学年に応じた進路指導	○模試のデータや進路検討会を活用し、3年間を見通した進路指導を行う。	・各学年で進路検討会を実施 ・模試データを全職員で共有	B	●定期的に実施している模擬試験をもとに模試検討会や三者面談等を行い、生徒の状況について把握することができた。 ▲模試検討会の職員の参加が対象教科のみとなってしまうケースが多かった。
		◇面談による指導	○研修会を実施し、進路指導の実践力を向上させる。	・キャリアサポーターによる個人面談の実施	A	●小論文や入試改革新テストなどの職員研修を実施し、職員の資質向上に努めることができた。 ●キャリアサポーターと連携し、地元企業の開拓や情報を生徒に還元することができた。 ▲研修については、内容の検討や時期に課題が残った。
生徒指導	生徒の規範意識	◇基本的生活習慣の確立と社会人の基礎となる整容指導	○8回の服装・頭髪検査中、1回でも不合格者を0にする。	・事前告知と、整備の促進 ・社会人となる前に身につけるべき資質を理解させる。	B	●事前告知をすることで規範意識を高め不合格者を減少することができた。 ▲不合格者0にできなかったことと、一部の生徒の校則や教育方針の理解度の低さが今後の課題である。
		◇各種法令・法規に基づいた指導の徹底	○特別指導、いじめ、交通事故・違反、貴重品の盗難等の件数を前年度より減らす。	・法令遵守の重要性と違反等が何故いけないかを集会時等で繰り返し諭す。 ・毎月第1週目「昼休み巡回週間」	B	●特別指導の件数が3件、交通事故1件、盗難0件であり落ち着いた学校生活を送らせることができた。 ▲特別指導の件数が昨年と同じであり、目標を達成することができなかった。
	生徒会活動の充実	◇自発的な生徒会執行部の活動	○生徒会主催行事等において生徒が自発的にアイデアを出し企画・運営を行う。	・計画的な準備と準備作業時の教師側の積極的な関わり	B	●主体的に計画・準備を行い、各種行事を実施することができた。 ▲生徒全員が参加する取組ができなかった。
人権教育の推進	同和問題を中心とした様々な人権問題の理解	◇同和問題学習LHR ◇様々な人権問題学習 ◇差別を見抜き、差別を許さない人間の育成	○各学年単位で同和問題に関する認識を深める ○学年ごとに、「水俣病をめぐるとの権利」、「ハンセン病回復者の権利」について理解を深める。 ○生徒アンケートで肯定的評価80%以上を目指す。	・LHR指導案について人権教育推進委員会で内容を検討し、各学年単位で学習指導案を作成する。 ・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料や県の事業、自治体作成資料を利用する。 ・人権教育推進委員会が研修計画を作成する。	A	●人権教育推進委員会にて各学期のLHR案の策定及び振り返りを委員間で行い、複眼的視点からよりきめ細かな人権問題学習の取組につながった。県教育委員会作成の資料(DVD等)や自治体作成資料も効果的に活用できた。 ▲人権を尊重した教育に関する生徒評価が78%と前年度と変わっていない。校内研修で教育実践の交流を深め、人権を尊重した教育に関して職員間で話し合う機会を充実させることが課題である。
	職員の人権感覚の醸成	◇職員研修を通して知識を理解するとともに人権感覚を養う。	○身近に起こっている人権問題についての研修を実施する。 ○校外研修へ積極的に参加する。	・同和問題を中心に据えた職員研修の実施 ・校外研修への積極的参加を促す。 ・熊本県教育委員会作成の人権教育推進資料の積極活用 ・関係法令・施策等の理解、当事者に学ぶ研修等を通して、基本的認識の深化や実践的指導力の向上	B	●同和問題や教育実践の交流に関する職員研修を実施し、「部落差別解消推進法」の周知と共に人権を尊重した教育実践について職員間で理解を深めた。 ▲校外研修のフィードバックが十分に行われていなかった。

	命を大切に 心をはぐくむ指導	◇自他の生命を尊 び、大切にしてい こうとする態度 の養成 ◇自らの在り方生 き方を学ぶとと もに、夢や目標 をもち、その実 現に向けて努力 する態度の育 成。	○すべての教員が学習活動と おし「命を大切にす る心」を育む指導を行う。 ○行事等に、生徒が自尊感情 を高め、自己実現を図るた めの在り方、生き方につ いて学ぶ視点を入れる。 ○交通講話（スタントマンを 活用）を通して命の尊さ、 大切さを学ぶ。	・教科指導において関連する学習内 容を確認し、年間を通した指導を 行う。 ・福祉実習やボランティア活動、地 域貢献活動等を通し、生命、自然、 地域に対する畏敬の念を高める。 ・警察と連携し、実技講習会を行うこ とにより、生徒の交通安全意識、 命の大切さの高揚を図る。	A	●「命を大切に する心をはぐくむ 教育」「自己の生 き方を学ぶ教育」 の実践が、生徒評 価の「命を大切に する教育実践」(8 8%)「夢(目標)を 持っている」(74 %)につながってい る。 ●心のきずなを深 めるポスター・標 語作成、命の大切 さを学ぶ講演会、 人権LHR活動など を通して、自他の 生命を尊重する態 度の育成を図るこ とができた。 ▲いじめ事案の発 生があることから 、自他の生命を尊 ぶ態度を養うた めにさらに工夫を する必要がある。	
いじめの 防止	いじめの早期発 見、相談体制	◇職員の危機管理 意識の高揚	○生徒の変化に敏感になる。	・いじめ問題対策委員会年3回開催 ・いじめ防止対策の職員研修の実施	B	●外部講師のご意 見を、生徒理解及 びいじめ防止に 向けた取組の資質 向上につなげるこ とができた。 ▲いじめの疑われ る生徒に関して事 実確認が十分で はない場合があっ た。生徒に関わる 職員から状況を 聞き、確実な生徒 把握を行うことが 必要である。	
	いじめをなくす 取組	◇いじめ防止関連 の各種行事等の 実施	○行事等を通して、いじめ 防止の認識を深 める。	・いじめ防止全校 集会の実施 ・『怒』のこころ ウィークの実施 ・「心のアンケート」 年3回の実施	B	●全校集会で心の アンケートのフィ ードバックを行い 、いじめ防止に 向けた態度の育 成を図った。 ▲心のアンケート の実施方法及び手 順に関して担任 に十分な説明が なされていなかった 。事前説明の資 料を作成するなど して周知を徹底 する。	
保健 安全	保健教育の充 実	◇保健指導	○健康教育の充 実を図る。 ○健康診断実施 後の治療率の 向上を図る。	・生徒を対象とし た性教育講演会 、薬物乱用防止 教育、献血セミ ナーの実施 ・AED、心配蘇 生法についての 職員研修の実施 ・治療報告書の 発行 ・受診が済んで いない生徒の個 別指導	A	●健康教育につ いて、本校の課 題に沿ったテー マや内容となる よう計画し、実 施することで、 健康教育の充 実を図ることが できた。 ▲治療報告書 を複数回発行し たり、個別に受 診の勧めを行っ たりといった取 組をしているが 、なかなか受診 に繋がっていない	
		◇心身の健康問 題を抱える生徒 への支援	○組織的な支援 の取組	・保健室来室状況 の記録分析 ・スクールカウンセ ラー、特別支援 教育コーディネ ーター、教育相 談担当との生徒 情報の共有 ・外部の専門機 関との連携	A	●今年度、心的 要因を背景に保 健室を利用した 生徒数が増加し ている。多様な 特性のある生徒 に対し、関係者 と情報を共有す ることで専門機 関等に繋ぐこと ができています 。 ▲保健室来室者 が複数の際、対 応する職員や場 所の確保が難し い。	
	環境教育	◇美化週間の取 組	○学期に1回実 施	・環境委員会が 主体となり生徒 主導型での実施	・環境委員会が 主体となり生徒 主導型での実施	B	●学期毎に環境 委員で美化点検 を行い、環境美 化に対する意識 を高めるよう取 組むことができ た。 ▲環境美化週 間の期間だけの 取り組みになり がちで、普段か ら環境美化に努 める意識の向上 を図るような取 組みができな かった。
		◇学校環境ISO の取組	○地域清掃活動 の実施 ○安全・安心な 環境整備 ○節電に向けた 取組	・毎月地域清掃 活動実施 ・ ・每学期安全点 検を実施 ・環境委員によ る呼びかけの実 施	・毎月地域清掃 活動実施 ・ ・每学期安全点 検を実施 ・環境委員によ る呼びかけの実 施	B	●ISO宣言文を 教室に掲示し、 本校の取組を周 知したことで、 節電・節水の効 果が上がってい る。 ▲ISO宣言文に 対する取組に差 があり、徹底が できていない項 目があった。
	危機管理 体制	◇職員の危機対 応能力の向上	○具体的な事例 を基にした職員 研修や事例紹介 等により、常に 危機管理に対す る意識を持たせ る。	・予防を視点に した危機管理マ ニュアルの整備 ・事件、事故、 不祥事の事例は 、その都度全職 員に紹介する。	・予防を視点に した危機管理マ ニュアルの整備 ・事件、事故、 不祥事の事例は 、その都度全職 員に紹介する。	A	●危機管理マニ ュアルについて 連絡協議会等 でも見直しを行 った。 ▲交通事故等も 起こっているた め、ゼロにする よう注意喚起を 継続して行う必 要がある。
◇自然災害に対 する対策の確立		○避難場所や避 難経路、生徒の 引き渡し方法を 、生徒・保護者 に周知する。	・自然災害を想 定した避難訓練 ・保護者向けマ チコミメールの 定着 ・学校ホームペ ージの活用	・自然災害を想 定した避難訓練 ・保護者向けマ チコミメールの 定着 ・学校ホームペ ージの活用	A	●放送設備が使 えない想定で、 備蓄してある拡 声器を利用し、 実践的な避難訓 練を行うことが できた。 ●マチコミメ ールの活用や学 校ホームページ 等に各マニュアル を掲載し、生徒 や保護者がいつ でも確認でき るようになった 。 ▲生徒の引き渡 しに関してあまり 周知ができな かったため、訓 練等の実施も考 えていく必要が ある。	
特別 支援 教育	生徒理解の充 実	◇生徒一人一人 の教育的ニーズ を把握した支援 体制の整備	○年間3回以上 生徒理解研修を 実施し共通理解 を図る。 ○個別の指導計 画を学期毎に検 討・更新する。	・担任以外に、 授業担当者等 で、気になる 生徒の情報を 収集する。 ・特別支援教育 ・教育相談委員 会を学期毎に 実施する。 ・SCによる相 談活動の推進	A	●年度当初や各 学期始めに気 になる生徒につ いての情報を 職員に周知し、 共通理解を図 ることができた 。 ●気になる生 徒についての 情報を授業担 当者や部活動 顧問からも 収集し、その 後の個別支援 に活用するこ とができた。 ▲SC来校が不 定期であるた め、タイムリー な場面でカウ ンセリングに 繋げることが 難しい。	
	外部との連 携	◇連携を通して 個々の生徒の課 題の早期把握・ 対応	○小・中学校や 地域の高校、支 援学校と随時情 報交換を行う。 ○関係機関に いつでも相談 できる体制づく り。	・地域の研修や 情報交換の場 に積極的に参 加 ・関係中学校 訪問(入学前) を実施 ・関係機関の 専門家に特別 支援教育・教 育相談委員会 への参加を依 頼	A	●地域のコー ディネーター 会議に参加し 、小中学校や 高校間の情報 交換を行い、 個別支援に活 用することが できた。 ●入学前に 関係中学校訪 問を実施し、 気になる生 徒の情報を まとめ、職員 間の共通理解 を図ることが できた。 ▲本校が相談 できる関係機 関は増えたが 、本人および 保護者の受容 が進まず、個 別のニーズに 応じた支援が 滞ることがあ る。	
地域 連携 (コ ミュ ニ ティ ・ス ク ール)	地域との連 携・協力	◇地域や小・中 学校との連携 の強化と情報 の共有	○地域や中 学校への情報 提供と交流に 努め、本校教 育への理解と 協力を得る。 (保護者アン ケートによる 肯定的評価 80%以上)	・小中学校との 交流(合同部 活動・職員 間交流等)を 実施 ・ホームページ の充実 ・中学校に本 校用の広報掲 示板の設置 ・地域連携対 策事業(学校 運営協議会) の実施	A	●小中学校と の交流は、例 年どおりの取 組に加え、龍 ヶ岳中学校と の連携など新 しい取組も できた。 ●ホームペ ージの内容・更 新頻度が改善 され、情報発 信が量と質の 両面で向上し た。 ▲学校運営協 議会の取組は 向上したが、 専門委員会の 開催回数およ び出席率が伸 び悩み、全 体としての意 思疎通に改善 の余地があ る。	

4 学校関係者評価

平成31年(2019年)2月14日に開催した学校評議員会並びに学校関係者評価委員会での御意見。

- (1)平成29年度は全29項目に対して、A評価(8)、B評価(20)、C評価(1)であったものが、平成30年度は全29項目に対して、A評価(15)、B評価(14)であった。A評価が大幅に上昇したこと、昨年度C評価だった「家庭学習時間の増加」について、担当部署の工夫・改善もあり、わずかでも時間を増加することができたことは大いに評価できる。
- (2)上天草市と連携した取組が年々増加し、充実してきている。特に、小・中学校との連携は、上天草高校を身近に感じ・知ってもらおう取組としても評価できる。
- (3)ローカルな取組が充実してきたことは評価できる。一方で、グローバルな取組は、今後益々充実させて欲しい取組である。
- (4)介護人材不足は地域の大きな問題となっている。福祉科の充実した取組が、生徒の職業観育成にもなり、その解決にもつながってくれることを期待する。
- (5)生徒へのアンケートの肯定意見として、「生徒の興味・関心を引き出すような授業・教え方」、「一人一人の人権を尊重した教育」、「いじめをなくすための教育」、「健康・安全教育」、「命を大切にすることを育む教育」等の項目が昨年度を上回っていることは、適切な学校運営ができているということであり大いに評価できる。
- (6)保護者へのアンケートの肯定意見では24項目中17項目が昨年度を上回っており、大いに評価できる。特に、「子どもを入学させて良かった」、「子どもや家庭に対して、学校は誠意をもって対応している」、「子どもにとってわかりやすい授業が行われている」、「進路相談が十分に行われている」、「先生が悩みや相談に親身になって応じている」等の上回っている項目は、是非地域の方々や中学生の保護者にも知って欲しい内容である。

5 総合評価

学校評価における評価項目のうち、「よくできている」とするA評価は全29項目中15項目と過半数であり、昨年度に比べ大幅に上昇した。さらに、昨年度C評価だった項目についても工夫・改善がなされており、総括的に見て、本年度の学校目標は概ね達成されたといえる。

なお、昨年度B評価だったものがA評価に上昇した項目が9項目、昨年度C評価だったものがB評価に上昇したものが1つあった。

特に、その中でも、計画的な職員研修の実施や校外研修の周知、あるいは授業評価の回数の見直し、教科担当者や地域人材の活用による面談の実施等、あらゆる改善の手立てを考えながら学校運営に取り組んでおり、今後も継続していく必要性を感じている。

さらに、8月に上天草市と「上天草市指定避難所協定」を結び、防災体制の充実・強化に取り組んでおり、地域と一体となった災害時の連携体制の構築を図るための見通しができたことは高く評価できると考える。

また近年、コミュニティ・スクールの取組やスーパーグローバルハイスクールの取組が進んでおり、従来の取組を継承しつつ、新しい事柄にも積極的に取り組んでいくことが、本校の魅力化と学校目標の達成には益々必要であると考えられる。

6 次年度への課題・改善方策

学校評価アンケート、学校評議員会並びに学校関係者評価委員会の御意見等から、以下の5点を次年度への課題・改善方策と考える。

- (1)学校の取組について、保護者や地域への情報発信を工夫し、充実させる。
ホームページの更新の頻度が上がったり、コミュニティ・スクールにおける取組として、大矢野中学校1年生・保護者を対象にした「大矢野中1年生校区内高校訪問学習」を新たに企画したりするなど、学校が工夫していることは伝わるが、有効な情報発信の在り方について検討していく。
また、上天草高校が魅力的な学校であることを地域の方々や中学生の保護者にも発信する必要性も指摘されているので、どの職員も容易に記事が載せられるようホームページの改良に努めたり、生徒の活躍の様子をタイムリーに発信するためにはどのような発信の仕方があるのか検討したりしていく。
- (2)充実した学校生活を送り、上天草高校を誇りに思い、自らの夢の実現のために学び続ける生徒を育成する。
上天草の良さや課題を深く理解し、上天草を支える人材育成のために、コミュニティ・スクールを基盤にした地域との協働体制を構築し、地域人材の活用を検討していく。
- (3)育友会行事や学校行事への保護者や地域の方々の積極的参加を促す。
育友会総会や公開授業週間、体育大会、文化祭等への校外からの参加者数の増加のために、早めの周知に努めると同時に、周知方法の検討も行う。
- (4)上天草高校の魅力発信を入学者の増加につなげる。
コミュニティ・スクールの取組やスーパーグローバルハイスクールの取組においては、各科や各部活動を中心に取り組んでいるが、上天草高校の教育目標「地域社会に信頼される学校」の実現のためには、各学年や各部署での取組へと広げ、そこにつながるをもたせることを検討していく。
- (5)ICT機器の整備
1年生ではスマートフォンを利用した学校教育をサポートするサービスを導入したが、成果を検証しつつ利活用について検討していく。また、中学校とのTV会議やICT機器のさらなる整備を図り、タブレットの活用や、主体的・対話的で深い学びの視点を重視した授業の推進を検討していく。